



# 夢づくり住宅ニュース



## ニッポンのお正月

2013年 1月号

日づけがひとつ変わるだけなのに、新しい年を迎えると自然と気持ちが引き締まりますね。門松、初詣、おせちにおとそ・・・などなど。新年にちなんだ“ことば”や“ならわし”が数えられないくらいあることからわかるように、日本人にとって「お正月」は特別なものです。

### 「年神様（としがみさま）」へ感謝をささげる“ニッポンのお正月”

もともとお米を作る農耕民族であった日本人。新しい年を迎えると、その年の豊作を願って神様にお祈りを捧げていたといえます。皇室には、川に入って身を清め、天と地、東西南北の四方を拝む習慣があり、この「身を清めて神様を迎える」神事がお正月につながったのだそう。

自然のめぐみに感謝し、すべてのものに神様が宿ると信じていた日本人は、亡くなった先祖の魂が田畑や山の神様になり、子孫の繁栄を見守ってくれているのだと考えていたのだとか。

そして、その神様がお正月になると、実りとともに家々に一年の幸せをもたらすために、高い山から下りてくると信じていたのです。

1年に1回、お正月にやってくる神様は、特別な存在。だから、「年神様」と呼んでお迎えする支度をしました。お正月のさまざまな行事や風習は、この年神様へ「今年も豊作でありますように」「新しい年も一家がそろって幸せに暮らせますように」という願いと感謝の気持ちがだんだんと形になったものなのです。

### 元祖ニッポンのお正月！～江戸時代のハナシ

宮廷や公家、神社仏閣といった身分の高い人たちの神事から始まったお正月の行事が、一般の家庭でも習慣になったのは江戸時代になってから。

当時の文化が今でも私たちの暮らしのさまざまなところに息づいているのは、なかなか興味深いものです。

江戸に暮らす庶民の間には、様々な季節の楽しみがありました。

春には梅見と花見、初夏に潮干狩りに出かけ、夏は花火で夕涼み、秋になるとお月見や紅葉を楽しみ、冬は雪景色をめぐる・・・。もとは身分の高い人たちが楽しんでいたものが、一般の人達の娯楽として広まっていったのが江戸時代なのです。

### ★江戸の「おせち」はなかなかぜいたく？

季節の変わり目にあたるお節句に食べる「お節料理」から始まり、いちばん大切なお節句であるお正月の料理をさすようになった「おせち」。

1年の幸福や豊作を願って年神様にお供えする料理が一般に広まっていったのは、江戸時代も後半のこと。江戸の庶民がだんだんと豊かになってきたことが大きく影響していて、その内容はバラエティに富み、今の私たちから見てもなかなか贅沢です。



#### おせち料理に込められた意味

 エビ 長寿を願って。	 数の子 子孫繁栄を願って。	 田作り 五穀豊穡を願って。	 レンコン 見通しが良くなりますように。	 紅白なます 平和の願いを。	 栗きんとん 財産が貯まりますように。
 黒豆 まめに暮らせますように。	 伊達巻き 文化発展を願って。	 かまぼこ 紅はめでたさを、白は神聖を。	 昆布巻 「喜ぶ」の言葉にかけて。	 サトイモ 子宝に恵まれますように。	 ゴボウ 細く長く。

### ★家族で迎える「ハシ」のお正月

新年は、家族が全員そろって迎えることも約束でした。「あけましておめでとうございます」と、あらたまった挨拶をかわすのは、家族全員で年神様をお迎えしたいという気持ちの表れです。

一般の家庭では家族全員で神棚の年神様にお祈りを捧げ、初詣へ出かけました。この時、用意しておいた新しい衣服を身に着けるのですが、これを「晴れ着」と呼ぶことからわかるように、日本人にとってお正月は年の初めに1年の幸せを願う「ハシの日」という意味が強かったのです。

### ★初詣の習慣が広まったのも江戸時代

それまでも1年の豊作と幸福を祈って神様にお祈りをする気持ちはあったようですが、神社にみんなでお参りに行くのが習慣になったのが江戸時代なのだそう。電車や車などない時代ですから、村にある神社に祭られた氏神様へお参りしていました。



### ★お年玉の始まり

子供にとってお正月の楽しみは、やはりお年玉でしょう。このお年玉の始まりは、神前に供えた丸餅でした。新しい年の神様の魂のこもった餅を下げて人々に分配したものを「年玉」と呼んでいました。江戸時代に入って、商家の主人が奉公人に餅の代わりに金銭を与えたことが、今のお年玉の形となったのです。目上のものから目下の者へ、年神様の魂と力を分け与え、「さあ、今年も頑張るんだよ!」という願いと励ましの意味が込められているのです。

#### 地域で違うお雑煮

お正月にどこの家でもよく食べるお雑煮は、地域や家庭によって、味付けや具に違いがあるようです。  
【汁】すまし汁仕立ての家もあれば、みそ仕立て（赤みそだったり、白みそだったり）、小豆仕立ての地域も。  
【お餅】こちらは角餅のところもあれば、丸餅のところも。そして餅を焼く地域もあれば、煮る地域も。  
【具材】鶏を使う地域が多いようですが、塩ブリや塩鮭を使ったりと、色々のようです。

#### ■【地方によって違う“雑煮”の例】■

- 関東風：すまし汁+焼いた角餅+小松菜、にんじん、鶏肉、三つ葉など
- 関西風：白みそ+焼かない丸餅+里芋、大根、にんじんなど
- 島根県：あずきを煮たお汁粉のようなお雑煮
- 香川県：あんころ餅を入れた白みそ仕立て
- 福井県：「かぶら雑煮」という、かぶと赤みその雑煮。



## お正月 Q & A

Q. お正月の準備や飾り付けはいつすればいいの？

A. 「大安の日」がおすすめです。

門松、しめ飾り、鏡餅など縁起物を準備するのは大安の日がオススメ。さらに、正月料理の材料を買ったりと、お正月に向けてのほかの準備を始めてもよしとされています。

お正月飾りをつけるタイミングですが、29日は「苦待つ」と解釈され、また31日の大晦日も「一日飾り」という事で、神様をおろそかにしていると解釈されるので、28日までに飾るか、30日に飾りましょう。もちろん「煤払い（すすはらい）」のあとにしましょう。

Q. どうして門や玄関に“門松”をかざるの？

A. 「門松」は年神様が降りてくるときの“目印”です。

煤払いをして家の中をキレイにしたら、「年神様」を迎えるために門松を立てます。門松は「年神様」が降りてくる際の目標であり、それぞれの家に入る前にいったんとどまる、“依代（よりしろ）”の意味もあります。

Q. これがないと始まらない“お雑煮”。単なるお正月の料理ではないの？

A. 「お雑煮」のお持ちは年神様の“魂”といわれています。

お正月に雑煮を食べるようになったのは室町時代以降とされています。雑煮をご馳走として食べる本来の意味は、“年重ね”にありました。昔はお正月に皆いっせいに年を取る“数え年”だったため、お餅を雑煮にして食べることで、年神様の「御霊（みたま）」を分け授けてもらい、新年の福寿を願いました。





電気は“つくる、使う”だけでなく、“つくる、ためる、かしこく使う”時代に。家全体のエネルギーをコントロールする「スマートハウス」の住まいで、私たちの暮らしはどう変わのでしょうか？

参照：すむすむ 住まいと暮らしの総合サイト

## 電気はつくる、使うだけじゃない？ためる時代になった？

### 電気を“つくる、ためる、かしこく使う”

今まで、電気はためることができないといわれてきました。私たちが普段、使っている電気は、地域の電力会社から購入しています。大量の電気はためておくことができないので、発電量が減ると電力不足になるのです。夏や冬に節電をしてください、といわれるのはこのためです。節電といえば電気をできるだけ使わないようにしたり、緑のカーテンを作ってみたり・・・ご家庭で工夫されていると思います。

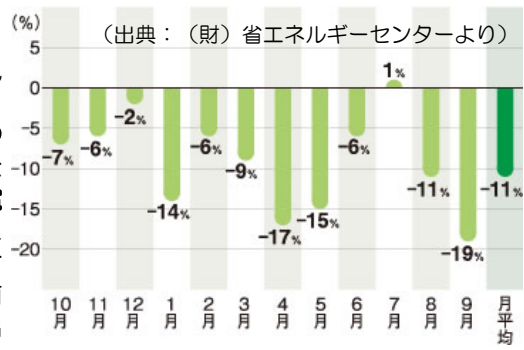
そういった背景から、最近では、太陽光発電システムを使って、家庭で電気をつくる住まいが増えてきました。そのうえ、電気をつくる、使うだけだったのが、電気を“つくる、ためる、かしこく使う”ことができるようになってきました。

住まいに太陽光発電システムや蓄電システムのような、電気を“つくる、ためる”設備があると、家庭の電気代の削減だけでなく、もしもの時に電気を備えておくことができます。

### 電気の使用状況を見て省エネに

住まいの設備は、どんどん変わってきています。最近注目されているのが、HEMS（ヘムス：ホームエネルギーマネジメントシステム）。太陽光発電や家庭用燃料電池などのエネルギーをつくる機器と蓄電システムが連携し、そこに家電や設備機器をつなげると、太陽光発電でつくった電気の発電状況や、使っている電気の使用状況、蓄電池にためた電気の量がひと目でわかるようになります。財団法人省エネルギーセンターの調査では、省エネナビ（※）を設置し、電気を「見える化」した前後の比較では、前年同月比と比べて平均で11%の省エネになったという結果が出ています。

※省エネナビ：電力消費量を計測し、モニターに表示システムのこと。（財）省エネルギーセンターより



HEMSは、ITを使い太陽光発電システムと蓄電システム、エアコンやIHクッキングヒーターなどの機器をつなぎ、それらをコントロールして電気をかしこく使います。

例えば、電気の使用量がコントロールパネルやテレビ画面でリアルタイムで見れたり、天気予報や過去の使用情報からエコキュートが自動でお湯を沸き増したり、深夜電力の利用や昼間の太陽光発電の電気をためておくなど、それぞれの家庭のライフスタイルに合わせて、HEMSが自動で考えエネルギーを最適に使う省エネしてくれるのです。



HEMSが、過去のデータから、家族のライフスタイルを判断。快適に暮らしながら、省エネを実現します。

### かしこい家で、快適に省エネな暮らし

今、注目されているのが、HEMSを中心として家電や設備機器が繋がって、家全体のエネルギーをコントロールする「スマートハウス」。

最近では、省エネ性を考え、高気密・高断熱などの建物の基本性能がしっかりとした住まいが多く見られるようになりました。この住宅本来の性能に加え、太陽光発電システムや蓄電システムを使って電気を“つくる、ためる”。家の中では、家電や設備機器をコントロールして、家じゅうのエネルギー（電気）をかしこく使うことができます。これが、スマートハウスと言われる住宅です。日本語に訳すと「かしこい家」。つまり「エネルギーをかしこく使う家」が登場したのです。

快適に暮らしながら、省エネの暮らしが実現できます。

最近では、電気自動車に蓄電池の機能をもたせる研究や、それを活かしたいろいろなライフスタイルも紹介されています。

つくった電気は売ることもできる！

**POINT!**  
太陽光発電で発電した電気は、普段の生活で使い、余った分を電力会社に得ることができます。今、太陽光発電を設置すると10年間、42円/kwh（税込）の固定価格で売ることができます。※買取価格や期間は、毎年見直しされますので、HPで事前に確認して下さい。  
<http://www.enecho.meti.go.jp/saiene/kaitori/index.html> (経済産業省 資源エネルギー庁)

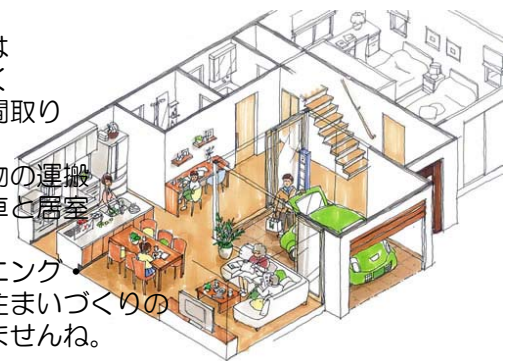
## 電気自動車の登場で間取りの考え方がかわる？ GLDKの登場！

■電気自動車が家電のように使えるGLDKの住まい

今までは部屋と離れた場所にあった自動車ですが、電気自動車は排気ガスを出さず、ガソリンを使わないので火災のリスクが小さくなります。つまり、電気自動車の登場で、車を家の中に取り込む間取りが実現できます。

室内に車を置き、部屋のすぐそばまで車を配置することで、荷物の運搬が便利になるなど、様々なメリットがあります。すでに電気自動車と居室が連携する研究が進められています。

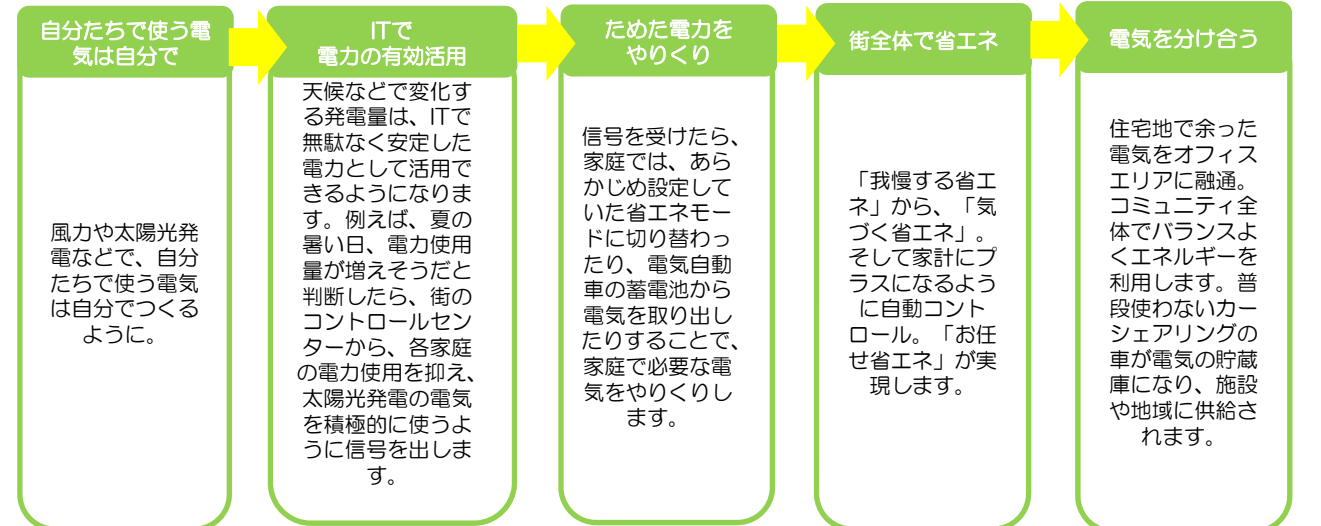
電気自動車の登場でG（ガレージ）+LDK（リビング・ダイニング・キッチン）という、間取りの考え方も出てきました。これからの住まいづくりの考え方、間取りのあり方も「GLDK」で大きく変わるかもしれませんね。



## これからは、スマートハウスからスマートコミュニティへ

スマートコミュニティとは、家庭やビル、交通システムをITでつなぎ、地域でエネルギーを有効活用し、快適で震災にも強い安全な暮らしを実現したり、環境を向上させるためのシステムのことをいいます。これからスマートコミュニティを形成するためには、かしこい家（スマートハウス）は、必要不可欠なのです。

国内では、すでに家庭やビル、交通システムをITでつなぎ、地域でエネルギーを有効活用するスマートコミュニティの実現に向けて実証が進められるなど、さまざまな取り組みが進められています。家じゅうの家電や設備機器が繋がって、地域が繋がって、街がつながる——。ますます便利になる暮らしはすぐそこまで来ています。



## 家じゅうの家電や設備機器が繋がって、地域中が繋がって、街がつながる。

※今月は「にしむらリフォーム」はお休みとさせていただきます。

これからも定期的に夢づくり住宅ニュースを発行していきます。ご要望などがありましたらご連絡下さい。  
にしむら工務店ホームページ

<http://nisimurakoumuten.jp>

# にしむら工務店

一宮市大和町毛受辻畑96  
TEL.0586-43-0505 zFAX0586-43-0572  
携帯 090-3483-1420

